

農作物の生育状況と今後の見通し

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稻	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収量は平年並で、品質は早生品種でやや不良だが、中間熟期・中生は平年並であった。</li> </ul> <p>【詳細】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早生～中間熟期では、総粒数は多く一次梗割合が低い傾向で登熟初期の日照不足も相まって乳白の発生を助長し、玄米タンパクも高い傾向であった。中生では乳白は少なく、玄米タンパクも平年並であった。</li> <li>・高温(最高35℃以上、最低25℃以上)により、早生～中間熟期で基部未熟が多く、さらに熟期を問わずごま葉枯病が散見され、全般に稲の活力が低下していたことが推察される。</li> <li>・精玄米歩合について品種間差はあるが概ね平年並程度。</li> </ul>	<p>【水稻・大豆共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年作に備え、用排水路を点検し、ほ場の排水に努める。</li> </ul>
	大豆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は11月末でほぼ終了し、少粒傾向である。</li> <li>・品質の状況は、早生は品質収量とも良好、中生は汚損、しわ粒により品質が3等・特定加工中心の様子。</li> </ul>	
	麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出芽とその後の生育は概ね順調である。</li> <li>・一部で、スズメノテッポウやトゲミノキツネノボタンなどの雑草の発生が多いほ場があり、防除が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水を促しながら年内生育量を確保する。</li> </ul> <p>【降雪が続く場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪解け後は、排水溝を点検し、明きよと排水溝を連結する等ほ場の排水に努める。</li> <li>・積雪期間が長期にわたった場合は、雪解け後にできるだけ早く窒素肥料を追肥し、生育の回復に努める。</li> <li>・雪害は、根雪が100日を越えると多く発生する。根雪が長引くと予想される場合には、融雪資材(育苗培土、堆肥等)の散布を行う。</li> </ul>
果樹	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せん定作業は順調に進んでいる。</li> <li>・気温が高かったため、落葉は例年よりやや遅かった。</li> </ul>	<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫の越冬量を減らすため、罹病した枝葉の処分を励行する。</li> <li>・棚栽培の果樹は、大まかな枝の間引きを早めに行うとともに、モウソウ竹などの突き上げ柱を入れて、棚面の積雪による損壊を防ぐ。</li> <li>・カキの垂主枝など、大きな枝にも突き上げをして、積雪による折損を防ぐ。</li> <li>・かん水や防除の配管などは水抜きし、凍結による破損を防ぐ。</li> </ul>
	かき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富有、花御所は12月上旬に出荷を終了した。</li> </ul>	
	ぶどう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せん定作業の終盤である。</li> </ul>	
野菜	白ねぎ	<p>【春ねぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部のほ場でさび病がみられているが、病害虫は少なく、生育は平年並みで概ね順調。</li> </ul> <p>【夏ねぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月下旬よりトンネル栽培の定植が始まったが、暖冬による抽台を警戒し、早植えを控える傾向がある。生育は順調。</li> </ul> <p>【秋冬ねぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月以降に肥大が進み、12月以降も出荷が継続している地域では2L規格中心となり例年並みの出荷となっている。</li> <li>・気温が高いため、ネギアザミウマ、ヨトウムシ、ネギコガなどの害虫が例年より遅くまで発生がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋冬ねぎは取り遅れによる品質低下がないよう、適期収穫に努める。</li> <li>・春ねぎは、生育に応じた土寄せを行い、倒伏を防止する。</li> <li>・小菌核腐敗病の防除を徹底する。</li> <li>・積雪地帯では畝に紐を張るとともに、降雪時は紐で葉を挟んで固定し、雪による葉折れを防止する。</li> <li>・初夏とり作型は過剰施肥による過肥大で抽台を招かないよう肥培管理する。</li> </ul>
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好天により生育が進み、前半出荷は例年より20日程度早まったため、本作全体の約5割が収穫を終了している。気温の低下とともに生育は緩慢となっており、出荷量は西部地区で日量2,500ケース前後、中部地区で日量500ケース程度で推移している。</li> <li>・一部のほ場でべと病、菌核病が見られ、黒腐病も散見されるが、影響は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育が進んだため前倒し出荷となっており、今後の出荷量は鈍化するものとみられる。</li> <li>・べと病、菌核病の防除を徹底する。</li> </ul>
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月下旬～12月上旬の生育調査では、福部地区、北栄地区とも分球数は例年並みの生育で、概ね順調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白色疫病の予防散布を計画的に実施する。</li> <li>・種球ほ場のウイルス様株の抜き取りを徹底する。</li> </ul>
	ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫終盤となり、選果は週2回となり日量500kg～600kg程度。琴浦地区の累計では、出荷量357t(前年比103%)で例年並み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熟期促進のため、ハウスの保温に努める。収穫は12月末まで続く見込み。</li> </ul>
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月10日から秋冬にんじんの出荷が始まっている。昨年と比較し短根傾向であったが、12月以降は細長いものが増えており、台風等による生育遅れなどの影響が考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斑点細菌病の防除を徹底する。</li> <li>・一部、塩害を受けたほ場は、大幅な生育遅れで収穫に至らない可能性がある。</li> </ul>
花き	シンテッポウユリ(抑制作型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉吉市: ほぼ終了。</li> <li>・北栄町: 収穫は9割以上終了。11月下旬ごろからリン付き率が増え、50～60%となってきた。11月21日に行った調査では約25,000本がほ場に残っているとみられる。目立った病害虫の発生は見られない。現在、週2回の集荷で、日量1000～2000本、平均単価120円。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年末は切り前を変更し、7cmで収穫(現在9cm)の予定。</li> </ul>
	ストック	<p>【東部地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取市: 彼岸出し作型については、草丈20cm程度。病害虫の発生は見られない。発芽不良のため欠株があり、生育にばらつきが見られる。</li> </ul> <p>【中部地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>倉吉市: 大栄花き部会会員のほ場は、8月上旬播種分はほぼ終了、8月中旬播種分も8割程度収穫済み。8月下旬播種分が収穫始め。草丈は70cm～80cm。倉吉花き部会会員ほ場は8月上旬播種分が収穫中。8月中旬播種分は収穫始め、8月下旬播種分は花蕾径2～3cm。ほ場によりコナガ等の食害、灰色カビ病が散見される。</li> <li>北栄町: 現在収穫中。8月20日播種の収穫が徐々に始まっている。11月20日以降、スタンダードの出荷数が1万本以下/日となり、かなり減っていたが、12月上旬以降の気温が高いことも影響して、12月中旬以降2～3万本/日に増加した。スプレーは11月中旬以降、1～2万本/日で安定して出荷されている。単価はスタンダード、スプレーともに100円と高単価。</li> </ul> <p>【西部地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山町: 11月中下旬の収穫予定の作型で、花芽分化期(9、10月)の高温による開花遅れが見られている。11月中旬の出荷量は6,000本/日で前年並み、11月下旬は1,900本/日で対前年比33%、12月上旬は900本/日で、同15.5%と極めて少なくなっている。計画対比50%弱。1ほ場で菌核病の発生が見られたが、適切に防除し、被害は抑えられている。</li> </ul>	<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温が高い状況が続いているため、灰色カビ病の防除を徹底する。また、今後気温の低下に伴い、菌核病の発生が懸念されるため、定期防除に努める。</li> <li>・気温の高い状況が続いており、ハウスの換気に努める。</li> </ul> <p>【倉吉花き部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月下旬播種分の出荷は年末から始まると思われる。</li> </ul> <p>【大山町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電照設備がないため、積極的な開花促進処理は不可能。今後の高温でやや開花が進むと思われるが、年内出荷率60%の目標には届かない見込み。</li> </ul>
畜産	イタリアンライグラス	<p>【東部地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月下旬、鳥取市(気高地区2ha、鹿野地区5ha)の水田に播種。生育は順調。草丈5～10cm程度。</li> </ul> <p>【大山地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は順調。</li> </ul> <p>【西部地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育は平年並み</li> <li>・9月播種は、1番草収穫。</li> <li>・11月播種は、草丈10cm程度。</li> </ul> <p>飼料用稲</p> <p>【東部地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東部地区WCS190haの収穫調整は9/6から始まり11/27(昨年11/26)に終了。</li> </ul>	<p>イタリアンライグラス</p> <p>【大山地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪後の雪ぐされに注意。</li> </ul>